

# 和食文化紹介ブース デザインコンペティション 結果発表

「和食文化紹介ブース デザインコンペティション」にご応募頂きありがとうございました。

応募作品のひとつひとつについて厳正な審査と議論を行った結果、残念ながら採用者はなしと決定いたしました。

また、採用には該当しないけれども優れた作品であると評価された4作品を佳作（賞金200,000円）として選定させて頂きました。

佳作4作品をご紹介します。

## 佳作

佳作（賞金200,000円）	
デザイン コンセプト	雫 (SHIZUKU)
受賞者	土屋 健 (ツチャアーキテクトスタジオ)

「おもてなしの心」は最初から最後まで礼を尽くすこと。  
 「雫」は最後の一滴まで礼を尽くすこと。  
 日本料理では、出汁・酒・醤油など、一滴で味が左右される。  
 一滴が生み出す限りない可能性。  
 雫そのものは小さいが大きな力を持っている。  
 静かに、穏やかに。  
 そして光をあたえられると七色に輝き出す。  
 すべての源である。

### 『春夏秋冬』エリア

日本屋敷の4畳にて四季を表現する  
 床(畳)部分に上げることができ、板の間部及び壁の展示を閉鎖  
 で閲覧可能になることができる。

壁面を設け、ブース内外を隔てることできる。  
 畳部分は両手を通じ行き来ができる。

出入り口の上部はガラス張りとなり、透過性フィルムを  
 設置し、プロジェクターで四季の映像を放映する。

壁面は背割障子もしくは互立垂れ、ブースを壁物に見立てる。  
 壁面上部には長尺鏡(はし鏡+アルミ製の組み合わせ)を配置し、高い  
 天井にリズムを与える。  
 畳とともに、本展示のラインとして、タペストリーを設置。

### 『料理道具』エリア

椅子座席は日本茶エリアと同じ使い方をとする。  
 当該椅子座席と対し、展示物・モニターにて  
 展示を行う  
 上部には天井から垂るイメージするガラス製  
 サンキャッチャーを配する。照明を当て、輝きを持つ。

### 『日本茶と器』エリア

石巻の器を秋(専断秋を)ブースと対面に配置し、廊を共有し、屋外での観茶を楽しむ。  
 椅子座席は椅子種となり、真鍮から展示物(器)及びモニターでの映像を観ることが出来る。  
 椅子座席の外側は障子種障子とし、外観として和を醸成することができる。屏風の折れ目が畳にも展示物を観る。  
 椅子座席と畳を、縁を成立させる。

畳は至利動機とし、床の白、縁毛畳の赤、茶箱載の縁が空間を創り出す。(イタリア国旗との共通色)  
 縁毛畳種となるが、お茶の情景を配る。  
 上部には天井から垂るイメージするガラス製サンキャッチャーを配する。照明を当て、輝きを持つ。

### 『日本酒と器』エリア

日本仕込機を設置し、その内部を展示・試飲エリアとする。  
 仕込機は高さ、6mとし、天井から垂るイメージするガラス製  
 サンキャッチャーを配する。照明を当て、輝きを持つ。  
 内部には一か所異なる映像を、袖と袖と異なる。  
 外観は種々のイメージを醸成する程度のパネル式展示とする。

### 簾・タペストリー

展示物(器)と対面に配置し、廊を共有し、屋外での観茶を楽しむ。  
 椅子座席は椅子種となり、真鍮から展示物(器)及びモニターでの映像を観ることが出来る。  
 椅子座席の外側は障子種障子とし、外観として和を醸成することができる。屏風の折れ目が畳にも展示物を観る。  
 椅子座席と畳を、縁を成立させる。

### ガラス製サンキャッチャー

天井から垂るイメージするガラス製サンキャッチャーを配する。照明を当て、輝きを持つ。

### 簾・タペストリー

展示物(器)と対面に配置し、廊を共有し、屋外での観茶を楽しむ。  
 椅子座席は椅子種となり、真鍮から展示物(器)及びモニターでの映像を観ることが出来る。  
 椅子座席の外側は障子種障子とし、外観として和を醸成することができる。屏風の折れ目が畳にも展示物を観る。  
 椅子座席と畳を、縁を成立させる。

### ブース屋根

展示物(器)と対面に配置し、廊を共有し、屋外での観茶を楽しむ。  
 椅子座席は椅子種となり、真鍮から展示物(器)及びモニターでの映像を観ることが出来る。  
 椅子座席の外側は障子種障子とし、外観として和を醸成することができる。屏風の折れ目が畳にも展示物を観る。  
 椅子座席と畳を、縁を成立させる。

### 四季映像放映

透過性フィルムを設置し、プロジェクターで四季の映像を放映する。

### ブース出入口

出入り口の上部はガラス張りとなり、透過性フィルムを設置し、プロジェクターで四季の映像を放映する。

### 仕込機展示(日本酒)

日本仕込機を設置し、その内部を展示・試飲エリアとする。  
 仕込機は高さ、6mとし、天井から垂るイメージするガラス製サンキャッチャーを配する。照明を当て、輝きを持つ。

### 四季映像放映

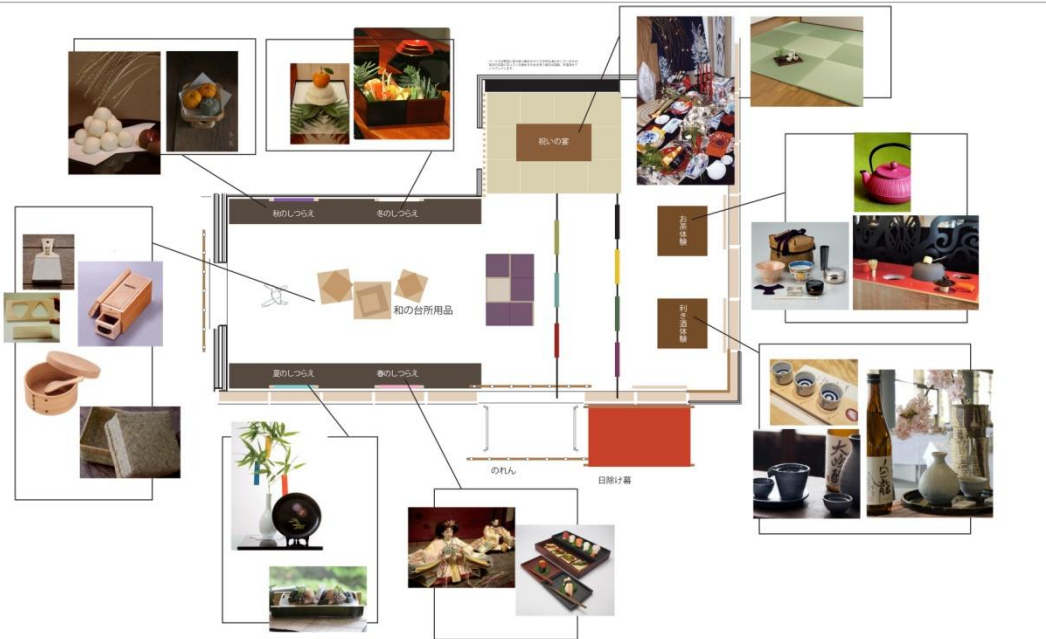
透過性フィルムを設置し、プロジェクターで四季の映像を放映する。

# 佳作

佳作（賞金200,000円）	
デザイン コンセプト	和食文化 ハレとケ 祈りと祝い 年中行事と祈りの和食文化
受賞者	中村 ちひろ (KAI ART INC.)

和食というモノと和食を食べるというコトを紹介し、深い日本食文化を知ってもらいたい。我が国は唯一絶対の神を持つ一元的な人間中心的な生活習慣を求めるよりも、万物に靈魂が宿っているとするアニミズム信仰を持って、動植物や自然に人間と同じ仲間として交流する多元的多義的生活習慣を持つ。そして、その生活習慣は「ケガレ・ケ・ハレの生活律」観念を人々の日常の暮らしや社会の中に根付かせてきた。命の誕生、新たな門出、家族の幸せ、こどもの成長、愛する人との哀別。人生の色々な場面で祈り、そして祝う。祈りのシーン、祝いのシーンには和食の文化がある。

レイアウトイメージ

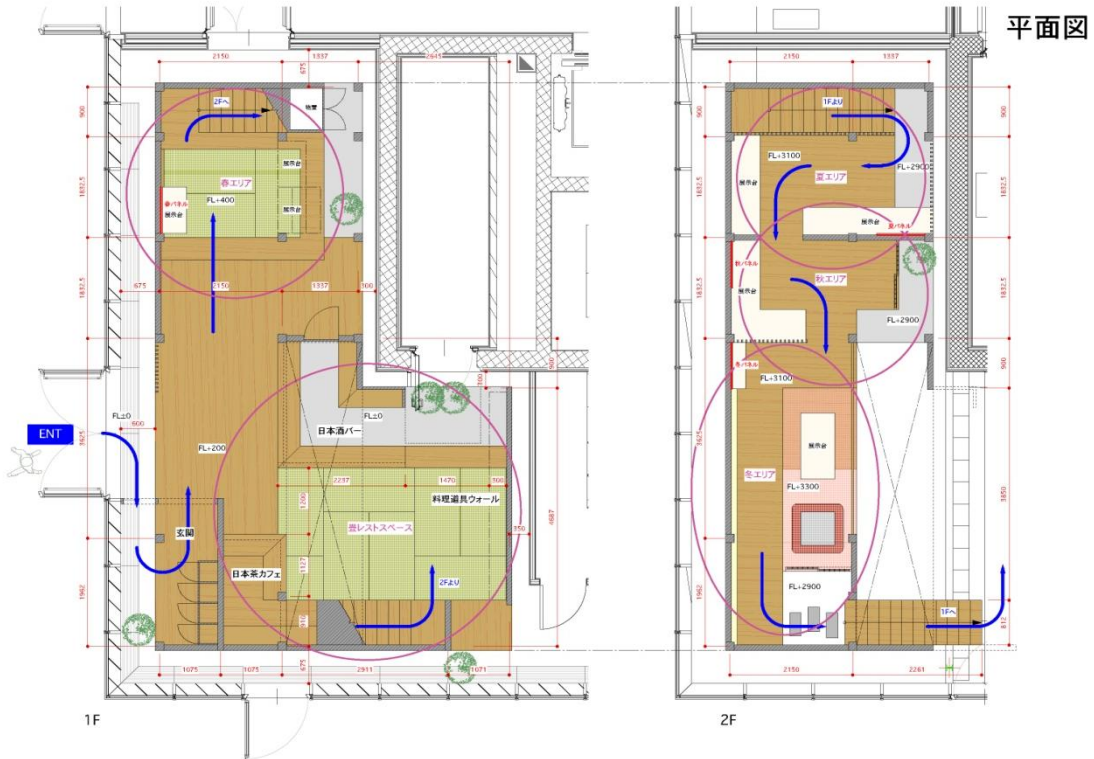


※応募作品の著作権は応募者に帰属します。

# 佳作

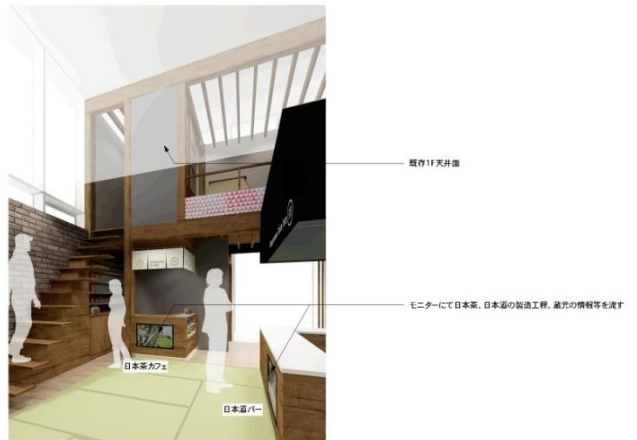
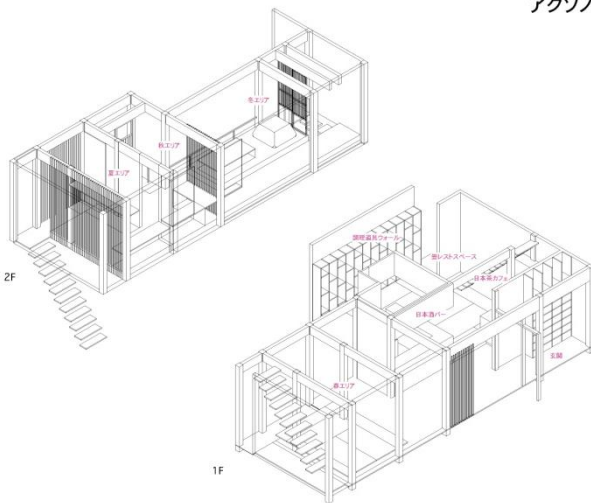
佳作 (賞金200,000円)	
デザイン コンセプト	靴を脱ぎ、素足で木や畳の質感を味わいながら『和食』文化をより良く知ってもらう
受賞者	高田 俊介 (ティ-デザイン)

『和食』文化をより良く知っていただくために、まず靴を脱ぎ素足で木や畳の質感を味わっていただきたいと考えた。一部を二階建てとすることで、より広くゆとりのある展示スペースをわかりやすいシンプルな導線をつなぐことができ、よりダイナミックな構成が可能となった。



アクセノメトリック図

日本茶と器のコーナー展開のデザインと展示方法

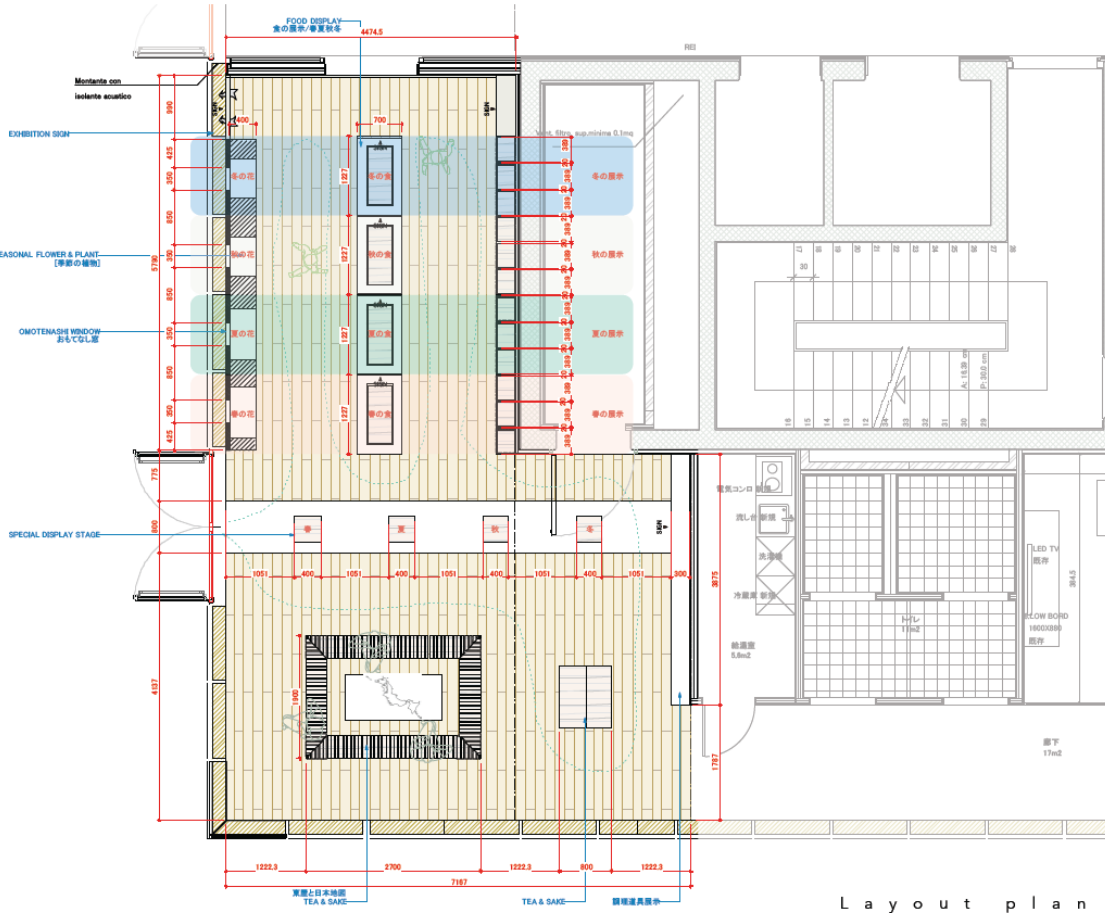


※応募作品の著作権は応募者に帰属します。

# 佳作

佳作（賞金200,000円）	
デザイン コンセプト	こころをプレゼント OMOTENASHIBOX
受賞者	堀田 淳子 畑中 庸一郎 (株式会社 ノンフレーム)

和のこころを伝える箱  
 こころをこめた手作りの食事を入れるお弁当箱として、大切な器や道具を保管する箱として、思い伝えるための贈り物を入れるギフトボックスとして、古くより日本人は食べ物や道具など、そして人へ伝えたい思いを飾り気の無い六面体の「箱」というものに納めてきた。  
 この日本文化にある、大切なものや気持ちをしまう為にある「箱」を使い、季節の装飾や料理のなどを器を展示する。



※応募作品の著作権は応募者に帰属します。